

関西医科大学 看護学部

2025 年度 卒業時アンケート 集計結果

調査概要

- 調査期間 : 2026 年 3 月 6 日 (金) ~ 3 月 10 日 (火)
- 調査方法 : KMULAS (学修支援システム) を利用し、調査票配付および調査回答を実施
記名方式
- 対象者 : 2025 年度 卒業予定者 (109 人)
- 有効回答数 : 95 人 (男性 4 人、女性 91 人) 【回答率】 87.1%

目次

1. ディプロマ・ポリシーの到達度について	p. 2
2. 教育理念に掲げる項目の修得度について	p. 2
3. 年次ごとの到達目標の到達度について	p. 3
4. カリキュラムについて	p. 4
5. シミュレーション教育について	p. 6
6. 国家試験について	p. 7
7. キャリア支援について	p.10
8. 教育設備・学修環境について	p.11
9. 大学院進学について	p.12
10. 全体を通して	p.13

1. ディプロマ・ポリシーの到達度について

問1：以下の項目は、関西医科大学看護学部が卒業時に身につけておくべき能力です。それぞれの目標について、どの程度到達できたと思いますか。

ディプロマ・ポリシー	十分 到達できた	ある程度 到達できた	どちらとも 言えない	あまり到達 できていない	到達できて いない	未回答
1) 生命と人間の尊厳を基盤とし、高い倫理観を備え生涯にわたり成長する	57(70.4%)				22(27.2%)	1(1.2%)
2) 専門職として自信と誇りを持ち、自分の役割を意識して行動する	50(62.5%)				29(36.3%)	1(1.3%)
3) 看護職の学びを通して自ら真理を追究し続ける姿勢を持つ	48(60%)				31(38.8%)	1(1.3%)
4) 看護の力を信じ、未知なる可能性へと行動を起こす	43(53.8%)				36(45%)	1(1.3%)
5) 社会と環境の変化を見据え、看護ができること、なすべきことに尽力する	44(55%)				35(43.8%)	1(1.3%)
6) 地域の特性と健康問題を理解し、グローバルな視野を持つ	42(52.5%)				38(47.5%)	
7) 人の生命・健康・生活を統合した看護実践能力を持つ	45(56.3%)				34(42.5%)	1(1.3%)
8) 看護者の責務を自覚し、他職種と協働する	49(61.3%)				31(38.8%)	

2. 教育理念に掲げる項目の修得度について

問2：関西医科大学看護学部での講義・演習・実習ならびに課外活動等を通して、以下の教育理念に掲げる項目について、どの程度身につけることができましたか。

教育理念に掲げる項目の修得度	かなり 身についた	ある程度 身についた	どちらとも 言えない	あまり身に つかなかった	全く身に つかなかった	未回答
1) 幅広い教養と高い倫理観・人間愛	52(64.2%)				27(33.3%)	2(2.5%)
2) 人々の生命・健康・生活を統合した専門的知識・技術を備えた看護力	45(55.6%)				35(43.2%)	1(1.2%)
3) 社会に貢献できる柔軟な創造力・行動力	41(50.6%)				39(48.1%)	1(1.2%)

3. 年次ごとの到達目標について

問3：以下の項目は、「年次ごとの到達目標」です。それぞれの目標をどの程度達成できたと思いますか。

年次ごとの到達目標	十分 到達できた	ある程度 到達できた	どちらとも 言えない	あまり到達 できていない	到達できて いない	未回答
1年) 人々と生活・健康・生命の尊厳について学び、援助関係を構築する基礎的な能力を身につける	53(65.4%) 27(33.3%) 1(1.2%)					
2年) 健康課題の成り立ちと生活との関連について理解し、健康支援に向けた看護の方法を学ぶ	52(64.2%) 28(34.6%) 1					
3年) あらゆる健康状態に応じた支援をするための看護の方法を身につける	52(64.2%) 29(35.8%)					
4年) 人の健康状態に応じ、その人がもつ力が発揮できるよう生活を調整する	55(67.9%) 25(30.9%) 1					

4. カリキュラムについて

問4：看護学部のカリキュラムについて、どの程度満足していますか。

各カリキュラムにおける満足度	非常に満足	どちらかといえば満足	どちらとも言えない	どちらかといえば不満	非常に不満	未回答
1) 基礎科目：語学系科目の授業（英語Ⅰ～Ⅲ、中国語、韓国語、フランス語）	30(37%)	40(49.4%)		8(9.9%)	3(3.7%)	2(2.5%)
2) 基礎科目：語学系科目以外の授業（倫理学、健康と運動、生活と環境、生物、化学、物理など）	33(40.7%)	38(46.9%)		8(9.9%)		2(2.5%)
3) 専門基礎科目：人体の理解と疾病からの回復過程（人体のしくみ、人体の機能、病態生理学／機能障害Ⅰ・Ⅱ、疾病論、薬理学など）□	41(50.6%)	35(43.2%)		4(4.9%)	1(1.2%)	
4) 専門基礎科目：健康支援と社会保障（情報活用論、情報処理技術、社会福祉・社会保障論、保健統計学、疫学、保健行政論など）	35(43.2%)	36(44.4%)		10(12.3%)		
5) 専門科目：看護の基盤（基盤看護分野、基礎ゼミ、医療人ガイダンス）	35(43.2%)	41(50.6%)		5(6.2%)		
6) 専門科目：コミュニティの中の看護（地域看護学領域）	38(46.9%)	36(44.4%)		6(7.4%)	1(1.2%)	
7) 専門科目：コミュニティの中の看護（在宅看護学領域）	40(49.4%)	34(42%)		5(6.2%)	2(2.5%)	
8) 専門科目：コミュニティの中の看護（精神看護学領域）	42(51.9%)	29(35.8%)		7(8.6%)	3(3.7%)	
9) 専門科目：ライフサイクルと看護（こども看護学領域）	36(44.4%)	35(43.2%)		7(8.6%)	3(3.7%)	
10) 専門科目：ライフサイクルと看護（成人生活援助）	37(45.7%)	35(43.2%)		5(6.2%)	4(4.9%)	
11) 専門科目：ライフサイクルと看護（成人治療看護）	38(46.9%)	35(43.2%)		5(6.2%)	3(3.7%)	
12) 専門科目：ライフサイクルと看護（老年看護学領域）	35(43.2%)	35(43.2%)		6(7.4%)	5(6.2%)	
13) 専門科目：ライフサイクルと看護（母性（助産）看護学領域）□	34(42%)	32(39.5%)		7(8.6%)	5(6.2%)	3(3.7%)
14) 統合・課題を探究する看護（感染看護論、災害看護論、看護政策論、看護教育論）	39(48.1%)	32(39.5%)		6(7.4%)	3(3.7%)	1(1.2%)
15) 統合・課題を探究する看護（看護研究Ⅰ・Ⅱ）	32(39.5%)	38(46.9%)		6(7.4%)	4(4.9%)	1(1.2%)
16) 統合・課題を探究する看護（地元創成看護論実習（生活看護論実習）Ⅰ～Ⅳ）	32(39.5%)	39(48.1%)		5(6.2%)	4(4.9%)	1(1.2%)
17) 統合・課題を探究する看護（統合実習、卒前インターンシップ）	43(53.1%)	33(40.7%)		5(6.2%)		
18) 助産選択：助産師コース（母性（助産）看護学領域）※コース選択者10名	4(36.4%)	6(54.5%)				1(9.1%)

問 5 : 在学中にもっと学んでおけば良かった、身につけておけば良かったと思う科目や分野・領域等がありますか。(該当するものすべて)

科目群	回答数
1) 基礎科目：語学系科目の授業（英語Ⅰ～Ⅲ、中国語、韓国語、フランス語）	15
2) 基礎科目：語学系科目以外の授業（倫理学、健康と運動、生活と環境、生物、化学、物理など）	6
3) 専門基礎科目：人体の理解と疾病からの回復過程（人体のしくみ、人体の機能、病態生理学／機能障害Ⅰ・Ⅱ、疾病論、薬理学など）	39
4) 専門基礎科目：健康支援と社会保障（情報活用論、情報処理技術、社会福祉・社会保障論、保健統計学、疫学、保健行政論など）	12
5) 専門科目：看護の基盤（基盤看護分野、基礎ゼミ、医療人ガイダンス）	5
6) 専門科目：コミュニティの中の看護（地域看護学領域）	4
7) 専門科目：コミュニティの中の看護（在宅看護学領域）	3
8) 専門科目：コミュニティの中の看護（精神看護学領域）	4
9) 専門科目：ライフサイクルと看護（こども看護学領域）	4
10) 専門科目：ライフサイクルと看護（成人生活援助）	4
11) 専門科目：ライフサイクルと看護（成人治療看護）	13
12) 専門科目：ライフサイクルと看護（老年看護学領域）	3
13) 専門科目：ライフサイクルと看護（母性（助産）看護学領域）	6
14) 専門科目：統合・課題を探究する看護（感染看護論、災害看護論、看護政策論、看護教育論）	6
15) 専門科目：統合・課題を探究する看護（看護研究Ⅰ・Ⅱ）	4
16) 専門科目：統合・課題を探究する看護（地元創成看護論実習（生活看護論実習）Ⅰ～Ⅳ）	3
17) 専門科目：統合・課題を探究する看護（統合実習、卒前インターンシップ）	6
18) 助産選択：助産師コース（母性（助産）看護学領域）	5
その他) 上記以外で学修したかった科目があれば教えてください。 [自由記述]	回答なし

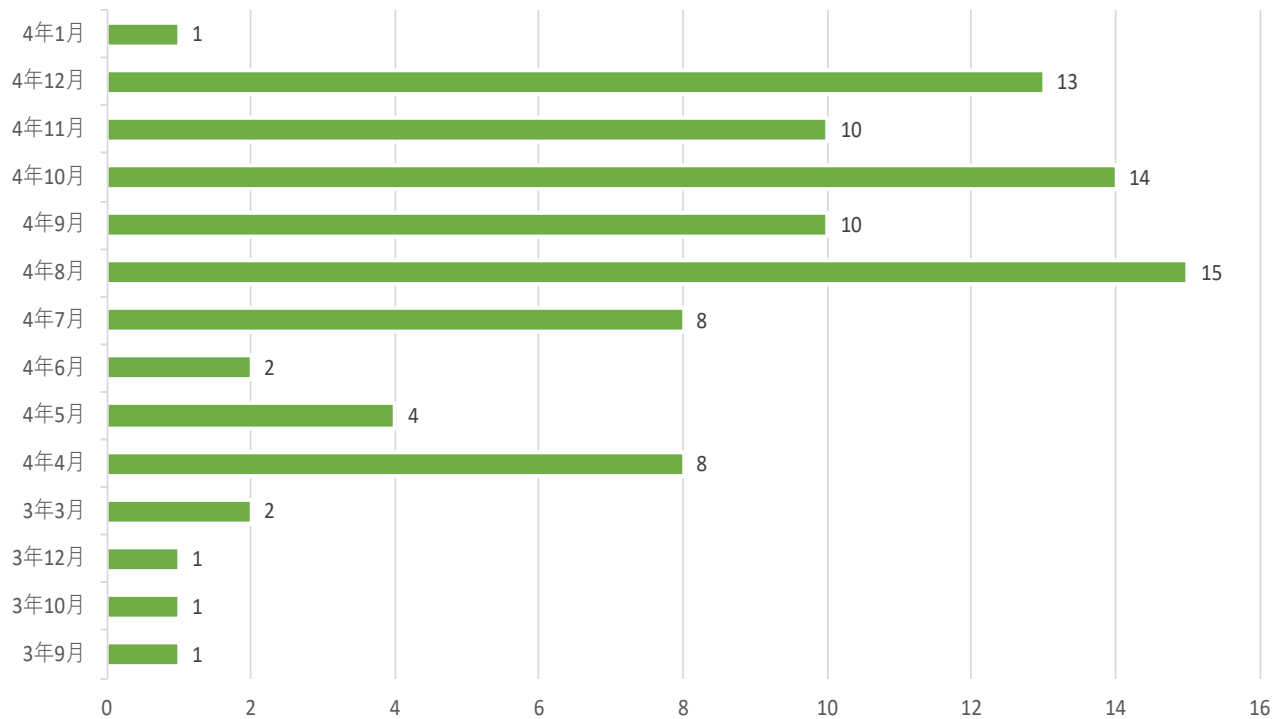
5. シミュレーション教育について

問6：関西医科大学看護学部でのシミュレーション教育について、どの程度満足していますか。

シミュレーション教育についての満足度	非常に満足	どちらかといえば満足	どちらとも言えない	どちらかといえば不満	非常に不満	未回答
1) 紙面におけるシミュレーション教育を経験できた	39(48.1%)	33(40.7%)	4(4.9%)	5(6.2%)		
2) 身体の一部を模したシミュレーターを用いたシミュレーション教育を経験できた	41(51.3%)	32(40%)	3(3.8%)	4(5%)		
3) 全身を模したシミュレーター（マネキン）を用いたシミュレーション教育を経験できた	42(52.5%)	29(36.3%)	5(6.3%)	4(5%)		
4) 異常を再現できる全身高機能シミュレーターを用いたシミュレーション教育を経験できた	40(50%)	32(40%)	4(5%)	4(5%)	1(1.3%)	
5) シミュレーション教育は、自分のニーズと合致していた	39(49.4%)	31(39.2%)	4(5.1%)			
6) シミュレーション教育は、看護援助に向けた思考やアセスメントに役立った	38(48.7%)	33(42.3%)	3(3.8%)	4(5.1%)		
7) シミュレーション教育は、看護技術の習得・向上に役立った	36(45.6%)	35(44.3%)	4(5.1%)			
8) シミュレーション教育は、臨地実習における学びの形成に役立った	40(50.6%)	32(40.5%)	3(3.8%)	4(5.1%)		
9) シミュレーション教育は、臨地実習でのコミュニケーション場で役立った	38(48.1%)	34(43%)	3(3.8%)	4(5.1%)		
10) シミュレーション教育は、臨地実習に向けた不安の低減に役立った	38(48.1%)	32(40.5%)	5(6.3%)	4(5.1%)		
11) 授業以外の時間に、自主的にシミュレーターを活用して学習できた	36(45.6%)	33(41.8%)	6(7.6%)	4(5.1%)		
12) 研修室は、シミュレーション教育を行う場として整備されていた	38(48.1%)	35(44.3%)	2(2.5%)	4(5.1%)		

6. 国家試験について

問 7. 国家試験の勉強方法について：開始時期は何年生の何月頃からですか。



問 8. 国家試験の勉強方法について：勉強の場所は主にどこでしたか。

選択肢	回答数
自宅・アパートなど	34
大学の自主学習可能な場所	26
大学の図書館・図書室	2
固定の場所はない	15
未解答	4

問 9. 4 年時の国家試験の 1 日平均の勉強時間はどのくらいでしたか。

	前期	後期
1時間	34	0
2時間	11	1
3時間	18	2
4時間	5	7
5時間	3	6
6時間	3	19
7時間	1	8
8時間	0	16
9時間	0	7
10時間以上	0	11
未解答	6	4

問 10. 学内での国家試験の模擬テストの回数は十分でしたか。

選択肢	回答数
多すぎる	0
十分である	53
少し不足している	23
全く足りなかった	0
未解答	5

問 11. 学内での対策講座は十分でしたか。

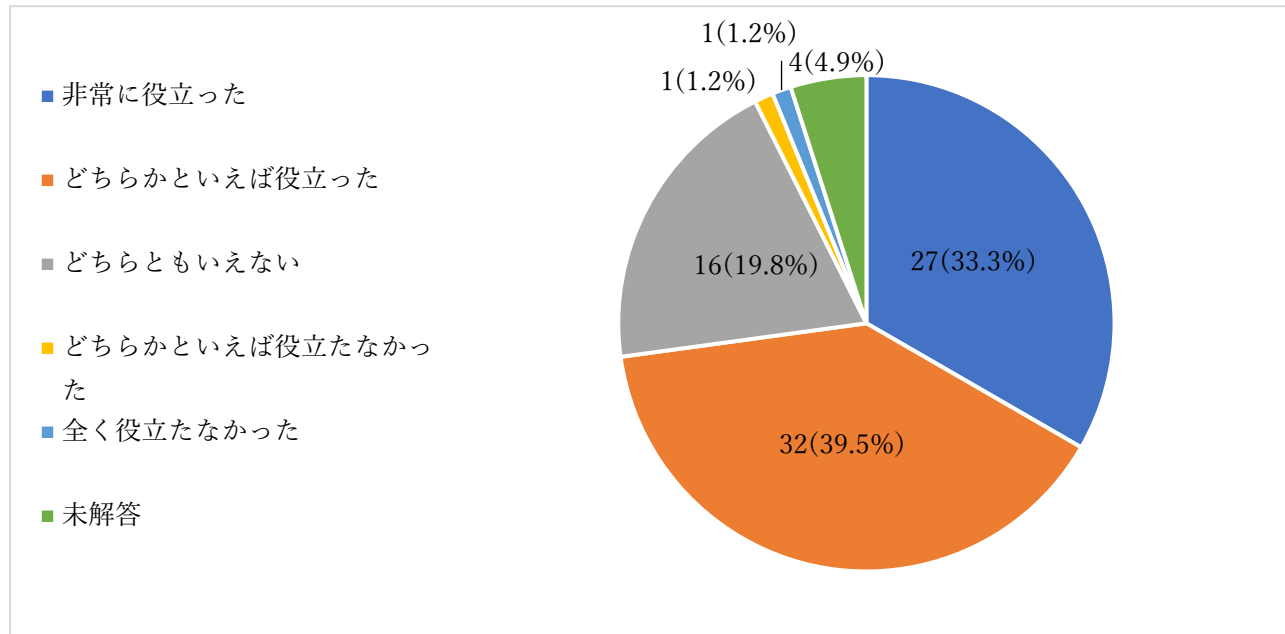
選択肢	回答数
内容も回数也多すぎる	5
十分である	65
内容も回数も少し不足している	7
全く足りなかった	0
未解答	4

問 12. 看護学部为国家試験に関する取り組みについて評価してください。

選択肢	回答数
良かった	62
あまりよくなかった	4
もっとして欲しいことがあった	8
わからない	3
未解答	4

7. キャリア支援について

問 14：キャリア支援委員会による支援・企画は、あなたの進路やキャリアを考えるのに役立ちましたか？
(例:進路ガイダンス、キャリア支援対策講座、面接マナー講座、看護職との交流会など)



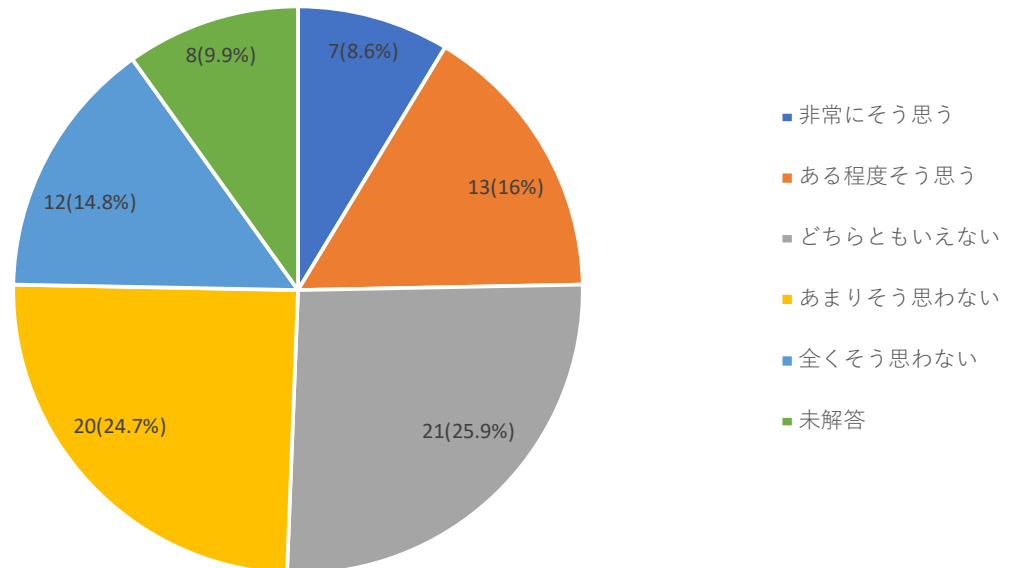
8. 教育設備・学修環境について

問 15：看護学部棟・医学部棟の教育設備や学修環境について、どの程度満足していますか。

看護学部棟・医学部棟の教育設備や学修環境についての満足度	非常に満足	どちらかといえば満足	どちらとも言えない	どちらかといえば不満	非常に不満	未回答
1) 講義室（看護学部棟 1～3 階）、討議室（看護学部棟 4 階）の設備・環境	26(32.1%)	34(42%)	3(3.7%)	10(12.3%)	8(9.9%)	
2) コンピューター室（看護学部棟 2 階）の設備・環境	36(43.4%)	35(42.2%)	2(2.4%)	2(2.4%)	8(9.6%)	
3) セミナー室（看護学部棟 3 階）の設備・環境	29(36.7%)	27(34.2%)	7(8.9%)	11(13.9%)	4(5.1%)	1(1.3%)
4) 基盤看護研修室（看護学部棟 4 階）、生活療養支援研修室（看護学部棟 5 階）、統合看護研修室（看護学部棟 4 階）の設備・環境	33(41.8%)	33(41.8%)	6(7.6%)	4(5.1%)	3(3.8%)	
5) 図書館（看護学部棟 1 階）の設備・環境	29(36.7%)	37(46.8%)	5(6.3%)	3(3.8%)	4(5.1%)	1(1.3%)
6) 学生ラウンジ（看護学部棟 2 階）の設備・環境	26(32.9%)	34(43%)	5(6.3%)	9(11.4%)	4(5.1%)	1(1.3%)
7) 学生ロッカー室（看護学部棟 2 階）の設備・環境	28(35.4%)	33(41.8%)	9(11.4%)	4(5.1%)	4(5.1%)	1(1.3%)
8) 看護学部棟内の通信設備・環境	24(30.4%)	36(45.6%)	6(7.6%)	7(8.9%)	4(5.1%)	2(2.5%)
9) 加多乃講堂（医学部棟 1 階）の設備・環境	31(39.2%)	32(40.5%)	10(12.7%)	4(5.1%)	2(2.5%)	
10) 図書館（医学部棟 3 階）の設備・環境	33(41.8%)	31(39.2%)	9(11.4%)	4(5.1%)	2(2.5%)	
11) 学生食堂（医学部棟 3 階）の設備・環境	31(39.2%)	36(45.6%)	4(5.1%)	4(5.1%)		

9. 大学院への進学について

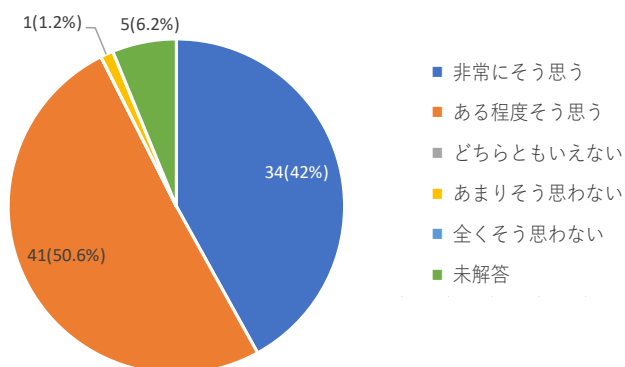
問 17：あなたは将来的なことも含めて、本学看護学研究科へ進学したいと思いますか。



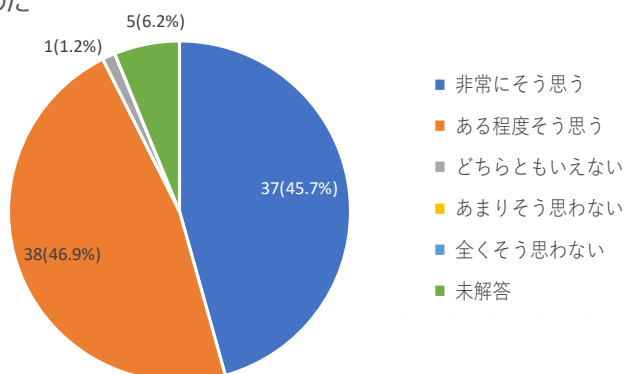
10. 全体を通して

問 18：看護学部での大学生活 4 年間を振り返って、総合的に捉えてどのように感じましたか

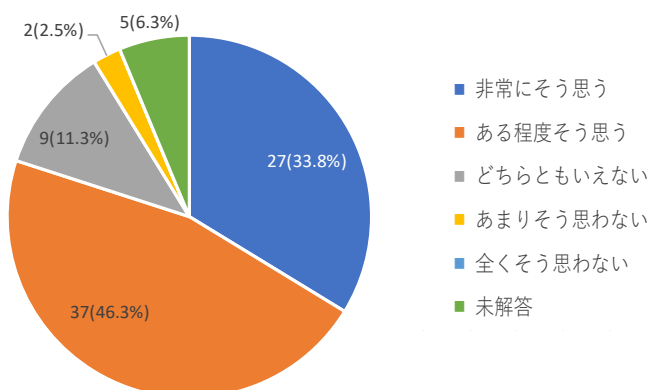
1) 関西医科大学看護学部での教育内容について、
全体として満足している



2) 関西医科大学看護学部での教育は、
卒業後の生活や仕事に役立ちそう



3) 関西医科大学看護学部での受験を、
きょうだいや知人に勧めたい



ま と め

○今回、2025 年度卒業予定者の「卒業時アンケート」を実施したが、卒業生 109 人中、有効回答数は 95、回答率は 87.1%であった。

○4 年間の教育目標である「ディプロマ・ポリシー」、「教育理念に掲げる項目」に係る個々の目標に対する到達度については、学生の主観的評価ではあるものの「十分/ある程度到達できた」との回答が 97.6～100%と高い値を示した。看護学部では、教育理念を踏まえ、ディプロマ・ポリシーに基づく体系的、組織的な教育の提供に向けて取り組んできた。「卒業時アンケート」の結果から、卒業生が 4 年間の学修を通して一定レベルの看護実践力を身につけ、学位授与に相応しい人材として社会へ送り出すことができたと評価できる。

○カリキュラムの満足度について、各科目群での「非常に/どちらかといえば満足」との回答は、基礎科目（語学系）は昨年度 76.5%から 86.4%と向上し、語学系以外の基礎科目および専門基礎科目は 87.6～93.8%、専門科目および統合・課題を探究する看護は 81.5～93.8%と全体として高い満足度を示す結果となった。

○各学年で設定されている「年次ごとの到達目標」について、「十分/ある程度達成できた」との回答は 98.7～100%と高い評価であった。ディプロマ・ポリシーを踏まえた各科目の目標設定に対して、学生が自身に期待される具体的な行動を理解するために学修方法を具体的に示すことや、多くの科目で実施しているルーブリック評価の活用をさらに拡大し評価基準を可視化するなど、引き続き教育体制を充実していく必要がある。

○シミュレーション教育は、看護実践力の習熟度を高めるために各専門領域・分野の演習科目で提供しており、令和 5 年度より組織化・体系化され、積極的に取り組んでいる。回答した学生は 2 年次からシミュレーション教育を受けている。その内容や環境に対する 12 項目の満足度について、「非常に/どちらかといえば満足」という肯定的意見が 87.4～92.4%を占めた。昨年度最も低かった項目「授業以外の時間に自主的にシミュレーターを活用して学習できた」は 87.4%で昨年度の結果から 0.2 ポイント微減した。引き続き実践に即した教育ができるよう、シミュレーション教育を提供する教員の教育力の強化と、設置されたシミュレーターを十分に活用できる物理的条件の充実、学生が主体的に自己学習に取り組めるよう学習意欲を喚起していく必要がある。また、適切な時期に評価を実施し、質の改善および向上に取り組むことも重要である。

○国家試験に関する各設問では、各数値データのみならず自由記述回答「後輩に伝えたいこと（アドバイス等）」など、これから受験する学生にとって非常に有益な情報が豊富に得られている。これらを後輩学生に適切に周知し学修意欲の向上に役立てたい。

○その他「キャリア支援」、「教育設備・学修環境」、「大学院進学のか考え方」の設問から得られた回答は、今後所掌する委員会等において各種取り組みや対策を検討する際のリアルな参考データとして活用していく必要がある。

○最後に、4 年間の大学生活全体を通しての総合的な意見を聞いた。「非常に/ある程度そう思う」という肯定的意見が「教育内容の満足度」では 92.6%、「学部での学びの今後の有用性」では 92.6%、「本学を家族や知人に勧められるか」は 80.1%と 3 項目全てでポイントは増加し良好な結果と捉えられる。今後も教育に対する満足度を維持・向上できるよう、時代の変化に対応しつつ未来を見据えて、継続的かつ広角的に様々なテーマに対応できることが求められていると実感している。

○今回の 5 期生の集計結果から、課題を適切に分析し対応するとともに、今後も学生の意見に真摯に耳を傾け、学部教育の向上に努めていきたい。

看護学部教務委員会